

Q17 少子化の動向や取組は地域別に見るとどのようなことが言えますか。

A17

●出生率の地域差

2014年の全国各地域の合計特殊出生率をみると、東海・北陸、中国・四国、九州・沖縄地域の都道府県は全国平均(1.42)より高い水準で推移している。中でも沖縄県は目立って高い水準を維持している。

一方で北海道・東北、関東、近畿地域の都道府県は、全国平均よりも低い水準で推移しているところが多い。合計特殊出生率が全国平均より低いのは11県(北海道、宮城、秋田、埼玉、千葉、東京、神奈川、京都、大阪、兵庫、奈良)である。

合計特殊出生率上位5県(沖縄・宮崎・島根・長崎・熊本)の人口は日本の総人口のわずか5.05%を占める一方、下位5県(東京・京都・北海道・奈良・宮城)は19.75%を占める状況である。

＜図表3-3-17-1 全国各地域における合計特殊出生率の推移＞

